

ある人家の風呂にて俄に卒中起こし、眞夜中の救急車擔架や救命處置やと閑靜なる住宅地のしじまを破りて、幸ひ一命とりとめたるものの重度の半身不隨となりたれば、妻は行く先途方に暮れて、いかにせましよろづ頼もし人に任せならひて、みづからは長年勤めもせず外食時のメニューだにすがすが決めざりしを、今よりは我一人の裁量にて世間との付き合ひ老後の支度あれこれ、病者を抱へて正しく舵取り計らひなむや、忽ち共倒れにこそならめと思ふものから、日々通ひ見る病室の夫の、はや家に歸らまほしう思へる氣色見るに、轉院やら施設やらの話はうち出で兼ねて、また心の内に、高卒にては異例の出世と人の驚くばかりの立身遂げ、定年後も顧問やら相談役やらとて社用車迎へに來させて、さばかり忙しげに飛び回りし人の不安落膽はいかばかりぞ、倒れてこの方一度とて弱音吐かず愚癡もこぼさず、この頃は我に憚りてか家に歸りたしとも言はずなりぬる人を、我自信なしとていかでかつれなく見放すべき、ここの年頃みづから稼ぎもせず安穩と構へて過ぐし來たるも、この人の陰に隠れて一切合切の責任勞苦を免れたればこそ、今なむ力のある丈振り絞り、心の及ぶ限りのこととしてこの人無事に家にあらせむ、近くに息子一家も住まへれば些かの協力は頼みてと思ひ巡らし、いざや我が家に歸らむな、タローも尻尾振りて迎へなむにをと耳元に囁けば、病者は瞳をさと輝かせて幾度も頷き、久しく剃らぬ無精髭を涙ぞ傳ふ。

共に七十越えたる老々介護、輕々しう思ひ立たばやがて行き詰まりもこそすれと、息子は腕拱きいかにぞや思へる氣色なれど、ヘルパーやら何やら毎日といふばかり人頼むべければ、汝らにさしも迷惑はかけじものを、今よりとあらばかからばとな思ひ案じそと説き伏せて、庭の藤棚盛りなる頃慣れぬ車椅子押し家のあるじを歸宅させたり。

かくこそと傳へ聞き、そのかみ世話になりしかばと見舞ひの客引きも切らず、手ごとに山づと海づとテーブルの上に山となり、迎ふる側も茶やらビールやら應對にいとまなく、往時偲ばす花の宴、病者をいみじく喜ばすものから、やうやう藤の波引き人の心もかれ行き始め、陽射しの日に日に強くなりまさる程に、おとなひ絶えてひっそり寂しくなりにけり。

變はらず訪ね來るは白き制服着たる名札付きの人々ばかり、この頃より病者の忍耐弱くなりて、表情険しくことあるごとに怒聲罵聲の障子震はせ、我がままにならぬ時は食事中に匙放り皿ひつくり返し眞つ赤になりて怒り狂ふを、さばかり温厚なりし良人の人格變はりたるかと呆れ惑ふ日もあり、またある時は朝から夕まで母さん母さんと我をば呼び續け、家事も電話も手につかぬこともあり、ほとほと疲れ果てて夜も眠らず、さりとて今更見じ知らじと投げ棄つべきにもあらねば、なほ我慢我慢と忍耐重ねて病者には辛き顔見せず、看護師ヘルパーといふ人々に介護といふもの習ひながら、辛うじて暦は秋にもなりぬ。

猛暑の名残か日中は風もぬるくて、全身玉の汗流るるを拭ひもあへず、病者の清拭やら水分補給やらとて廊下往復するに、良人は開け放ちたる障子の合間より庭の景色眺め出でて、何ぞ思ふことのあるにや珍しく縁側に下りたしとのサイン、もとより冷房好まぬ人にて、夏のさ中もエアコン止めて外の風入れよと頻りに求むるを看護師たちに遮られ、いとど不機嫌にこと少なくなりゆく見るが切なかりしを、今は我より他に人もなければ心やすくて、外に出づるかよしよしと外用の車椅子引き出で、やうやう病者をば乗り移らせつ。

陽射しよけにと大きな麥わら帽子被らせて見れば、縞柄の寢間着姿にふさはずちぐはぐなる様いとをかし、覺えず吹き出だすに良人もにつこと笑ひ、懐しやなこの帽子、じじ様野良仕事に愛用されし年代物ぞや、夏も冬もこれ被り黙々と田畑耕されしはやと遠き目して、とはず語りに昔人の御事ぼつりぼつりと、木陰選びてしづかに車椅子押し進め聞き入る程に、

門の邊り俄に騒がしく人聲のする、見れば例の制服着たる人々三四人こなたに向かひて、入りたまへ入りたまへと家のかた指し示し口々に叫ぶなり、何事ぞと呆れて車椅子止め佇めば、花壇よこぎり眞つ先に驅け來たる人慌ただしげに血相變へて、かかる陽射しの強きに何事おぼし立ちて外には出でたまひつるぞ、炎天下熱中症にもこそなりたまはめ、近頃のニュースなど幾度もご覧ずらむものと眉をひそめて厳しき口調、それは十分思ひ回せばこそかく帽子被せ木陰選びて車椅子押し進めつれと辨解するも聞く耳持たず、なほくどくど叱ればいとやくなくて貝の口に押し黙りぬ。

この月頃慣れぬ介護に疲弊し果ててをさをさ寝も寝られざりしが、この日を境にいとど疲れ易く涙もろくなり、をこなりをこなりかかると役立たずの何事思ひ立ちて病氣の夫無事に家にあらせむとは軽くも思ひなしつらむ、おのがことさへ人任せにしてこころ世を過ぐしきつるものを、箱入り奥様とちやほやされてぬるま湯にどつぷり浸かり、世間知らずを自稱するほどの馬鹿愚か者の、うちつけに人なり變はりてしつかり者になるべきにもあらぬを、世を甘く見てなまかなる介護にこの人悪くするよりは、まづ先立ち失せて息子なり嫁なりにその後の采配任せてましをと思ひなりては、犬の散歩の朝夕に線路を見下ろし川岸に立ち止まりてつくづく眺め入るを、愛犬もそれと察してか手綱引つ張り必死の吠え聲、ゆき過ぐる人も怪しげにかえり見てゆく。

かくていかになりゆく身かと心虚ろに眺め暮らす程に、やうやう彼岸の頃ほひにもなりぬるを、今年は何人任せの叶はぬ寺の用事あれこれ、墓石新しくすべき話などあればなほざりにもえせず、いとももの憂ながら重き腰上げ身支度して出づるに、驛前のタクシー乗り場雨天なればか長き列なしたる、いとどもの憂まされどさて歸るべきならねば最後尾につきて待つほど、前なる女性二人組のかたへは知り人なりけりと見るままに、顔合はすまじく目を背け傘の下深くぞ俯かれける。

雨脚強ければ傘隔てて會話の中身までは聞こえこねど、何やら樂しげに肩つつきうち笑ひたる氣配の、煩はしくも羨ましくも様々に思はれて、我ながら如何にしつるにか涙の後から後から更に止まらず、涙腺破れたるかと思ふばかり、タクシー乗りこむにも人わろくはしたなければ、やをら列離れ驛周りあてもなくさ迷ひ果てて、目につきしまま小綺麗なる建物の、カウンセリングちふ看板立てたるによるぼひ崩れ入りたり。

完全豫約制なればと受附の人困惑げなりしが、我が姿ただならずと思ひけむ、やがて別室に通され白衣の人と一對一のさし向かひ、雨の中ようこそ如何にしたまひつるぞと穩やかなる聲の、白髪混じり小皺多き醫師の昔の恩師に似たまへるはと見ては涙とめどなく溢れて更に更に止まらず、泣きじやくり泣きじやくり前なる机に突つ伏し延々とかき口説くを何分何十分續けけむ、涙も聲も枯れ果ててやうやう面上げて見れば、白衣の人は止めも咎めもせずうちまもる眼差し靜かに優しかりけり。

軽度の鬱てふ診断下りてよりはうち繼ぎ通院しつつ、心の治療とて薬飲みカウンセリング重ね夫と並び我もリハビリ、病人なれば無理すまじく息子には苦しなからも協力頼むと告げたれば、眼鏡を取りて目尻おし拭ひ母さん御免なと一言、をさをさ家に寄り附かざりしにこの頃は受験間近の子供たちひき連れ繁々通ひ來るを、良人は待ち受けて満面の笑顔、庭に秋の薔薇咲き車椅子に匂ひこぼれて、テラスには犬のじやれ聲子供の笑ひ聲のはなやかに響きわたる、あはれかかる晝下がりのこの家に再び訪れ來つるを、

川岸に立ち止まりては さめざめと泣きくづほれし 我し悲しも
弱りゆく妻の姿に 病人も 自死を決めつと 後に語りき